

# 学校での突然死

## 桐田明日香さんの事例

2011年9月、さいたま市内の小学校に通う桐田明日香さん(当時小学6年生)が駅伝の練習中に突然倒れ、心停止となり死亡した。けいれんを起こし苦しそうに呼吸をしていた明日香さんを見て、現場にいた教員等は「脈がある」「呼吸がある」と判断し、保健室にあったAEDは使われなかった。倒れてから11分後、救急隊が到着し心肺蘇生が開始され、電気ショックも行われたが救命することはできなかった。

この出来事は、どこでも起こりうることである。心停止直後によくみられる死戦期呼吸(ゆっくりとあえぐような異常な呼吸)を心停止の兆候と判断し、救命処置を開始することの難しさ、AEDを設置するだけでなく、いざという時に使える危機管理体制を構築しておくことの重要性が再認識された。

この事故後、明日香さんのご両親と市教育委員会は専門家の協力を得て、「事故対応検証委員会」を設置し、事故時の対応や学校の危機管理体制などを検証した。検証報告に基づき、学校で起こりうる危機事案に対する組織的・実践的な危機管理の基本的なあり方を示した「さいたま市立学校児童生徒事故等危機管理対応マニュアル作成指針」の作成、教員研修の充実、中学生以上の保健体育の授業においてAED使用を含む心肺蘇生法の実技指導の導入を進めた。さらに、教員研修のためのわかりやすいテキスト「体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKAモデル～」を作成。この中では、「(心停止の)判断ができなかったり、迷ったら、胸骨圧迫とAEDの使用に進む」など具体的にいざという時の行動が示されている。



## 高校生の部活中の死亡事例

2013年2月に横浜市内に通う18歳の男子生徒が、バドミントン部の部活中に突然倒れ、心停止となり死亡した。原因は突発性心室細動であった。同校の養護教諭でもある顧問が現場で救護に当たったが、AEDの使用など心肺蘇生の処置が取られなかった。これに対し、両親は「指導していた教諭が、速やかにAEDを使用していれば助けることができた」と訴えた。

神奈川県内では全172校の県立学校に対してAEDが設置されていた。2014年12月、神奈川県との和解が成立し、全県立学校で年1回、教職員を対象にした心肺蘇生講習などの研修を行うことが約束された。